

Q. 「登山道の維持が危機に瀕している」とはどういうこと？

A. 北アルプス南部地域には複数の登山道が存在します。登山道の維持は、行政機関だけでなく、民間の山小屋が収益の一部を持ち出す形で、毎年の維持作業（倒木の撤去等）や大掛かりな補修作業（木道の更新、石積み等）を実施してきました。

しかし、新型コロナウイルス感染症流行や大雨による被害など、さまざまな社会環境変化や自然環境変化の影響により、これまでの体制による登山道の維持が困難になっています。

～山小屋による登山道維持の様子～

登山道の雪切り
(槍沢～槍ヶ岳)

施工前



施工中



石組による補修
(上高地～西穂高岳)

施工前



施工後



土砂崩れの復旧
(横尾～槍沢)

施工前



施工後



ハシゴ修繕
(岳沢～前穂高岳)

施工中



※写真提供：北アルプス山小屋友交会

Q. なぜ寄付が必要？

A. 当エリアの山小屋や関係行政機関で構成する北アルプス登山道等維持連絡協議会の令和2年度決算書によると、約1,600万円の歳入に対して、歳出は約2,700万円となっています。不足する費用分は、山小屋の収益から持ち出すことによって補われています。

まずはこのような費用負担を軽減するため、利用者の皆様から寄付金をいただく取組を実験的に行っています。

※右の図に示されている事業費はほとんどが単純な人件費であり、工具や労働スタッフの宿泊費用といった経費は別に負担されています。

繰越金 約200万円
寄付金 約300万円
負担金 約1,100万円 (松本市、安曇野市、北アルプス山小屋友交会等が供出)

歳入計
約1,600万円

事業費
(大規模な補修工事)
約1,200万円
(例：石組みのやりかえ、災害復旧など)

事業費
(通常の維持管理)
1,500万円
(例：雪切り、倒木処理など)

歳出計
約2,700万円